

山と電気の風景論 ①

セリングビジョン㈱ 代表取締役 岡部 秀也

電気の源「山の日」施行

「電力の読者に山登りを電気論と関連づけて新連載したい」と本誌堀越社長から長年続く定期的ビジネスランチの席で誘われた。

大変光栄ながら、本格的な登山家は何人もいるので、私のような電力系ベンチャー会社で働き、仕事の合間で各電力会社などへの出張等のチャンスを利用して趣味の世界で登っている者が、果たして読者にしっかり、その楽しさ、苦しさ、醍醐味を伝えられるか心配な面もある。しかし、それ以上に山登りに関心のある方々に、「山の日」(8月11日)施行の記念の新年度に山岳登山と電源の現場実態を紹介できるチャンスなので、電力OBとして「山と電気の風景論」のチャレンジに積極的に臨みたい。

小生が近年はまっている日本全国の百名山経験談・絶景を中心に電気の源に留意して紹介したい。

登山の安全ポリシー

かつてケモノ道、藪漕(やぶこぎ)をして登山道を開いた深田久弥が書いた「百名山」開拓時代と違い、いまは装備もルートも宿泊、交通状況も格段に便利に登りやすくなった。とは言え、私自身、一年中、山に登ったり、山にこもっているわけではない。春過ぎ、夏、初秋のみのポピュラーな季節は登るが冬山や雪山縦走はやらない。標高の高い雪山は天候が変わりやすく低体温症や道迷いで遭難の危険があるからだ。アイゼン、ピッケル、ヘルメットは必需



丹沢をトレッキング(2014年4月中旬の山ザクラの頃)

品だが、これらを装着しても強風や吹雪、落雷などで滑落の危険もある。現場の山岳遭難救助隊にやっかいになることはしないと決めている。

またグレートトラバースの田中陽希さんのように、カヤックを使ったり、平地も歩き一筆書きをするわけでもない(昨年秋に南アルプス赤石岳登山口への車道、田中さんが走っているのを目撃し、頑張ると声援を送った)。

3年間約80座登頂と新年度のプラン

私は過去三年間で百名山には、平成25年は23座、26年は33座、27年は23座に登頂したので約80山のピークハントをしたことになる。

これには、昭和時代の入社間もない電力マン時代に先輩に連れられながらも天候不順で諦め三回目にしてリターンマッチできた立山連峰剣岳も含まれる。新田次郎著作を読み、映画「点の記」を見てぜひ登頂をと思いついた険しくきつい山だ。

山岳仲間と行くこともあれば、単独行のときもある。ただし準備だけは、人任せにせず自分で入念に行う。山岳現場での天候や山道状況などのリスクも考え、最新のヤマレコもよく見ている。山登りの「事故は自己の当事者責任」だが、企業経営の「失敗は経営者の結果責任」の厳しい原則と通じた部分がある。

最初は福島を含め関東周辺の日帰りか一泊コースを、次第に九州、関西方面、そして東北青森・岩手・新潟へと遠征した。昨年は、故郷信州付近の北・中央・南アルプスの山々・ハヶ岳連峰赤岳を計7回、各2-3泊で出かけた。上田菅平方面の四阿山にも春先の残雪のなかアイゼンを履いて登ったが、NHK大河ドラマ真田丸の領土であり、忍者を放って修行した修験道を想像した。

今年は、屋久島宮之浦岳、北海道の名峰縦走、北陸の白山、南アルプス光岳、悪沢岳などを計画中である。

なぜ山に行き、なぜ山を勤めるか?

私が百名山登頂にとりこになって登るのは、3つほどきっかけがあった。

・まずは身体、心のシェイプアップ

一つは、やや肥満体になり体力が落ちたため、都心でのストレスの発散を兼ねて別世界に身を置き、遅まきながら体力・精神力ともにシェイプアップできないかと考えたこと。幸いにも電力マンの頃には会社では営業や広報部門が長く、現場が好きで法人顧客やマスコミ関係者を訪問したり、市場調査回りをしていた。その後セリングビジョンを設立してから13年間、「ブラタモリ的」な外回りを、今でも本業、日課にしているため歩くことは苦にならない。むしろ清貧苦行の修験の世界を味わい、奈良大峯山、山陰大山、四国石鎚山などを目指すことにしたいと考えた。

・そして福島・線量測定、福岡・インバウンド

2つ目には、仕事柄、福島・福岡の出張が多く、除染・廃炉・地域復興に福島の関係する山々に登って地元温泉に入り、日本酒など名産品を味わおうとした。平成23年311大震災と原子力事故の影響を調査するため、線量計を持って福島磐梯山、茨城筑波山、群馬赤城山を、仲間とゆっくり登って見たこともある。一方福岡には、九州電力などをよく訪問し川内・玄海原子力の再稼働で意見交換したり、アジアゲートウェイの中国語普及で九州経済界や学会の方々の親交をもつ機会があり出張週末に九重山、阿蘇山、開聞岳などを登った。インバウンドで訪日する外国人もかなり増えて、阿蘇のある熊本県には一年間で三倍の海外顧客が訪問したという(EXPEDIA, 2015年情報)。

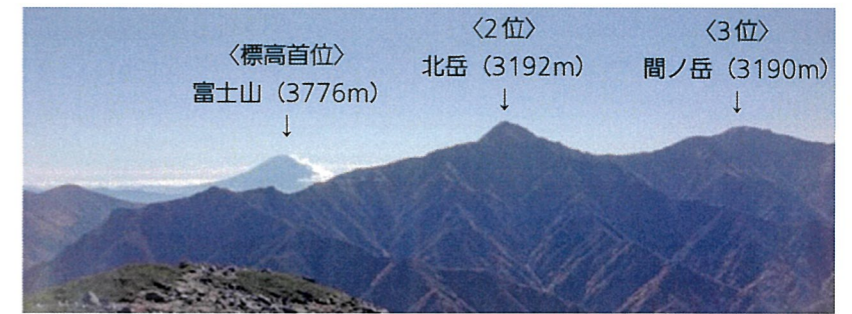
・さらに大規模電源パイオニアを視察

3つ目は、日本の70%が森林で占めているのに、山々を知らないのはあまりにももったいない。山歩きをして地域の景色や旅情を楽しみ、大げさに言えば、この国のかたちをつぶさに見てみようと思いついた。特に関西電力黒部、東京電力新高瀬川などの水力発電でも渓谷の豊富な山奥の雪渓の一滴が渓谷を形成していることも確かめたい。また山あれば温泉あり、温泉あれば地熱最適サイトもある。山歩きしつつ諸先輩が命懸けで切り拓いた大規模ダムなどの電源も自分で見てこようと考えた。

松永翁は南アルプス・ダム開発

電力の現役時代は、公私ともになかなか多用で山奥の山岳、山河までトレッキングする余裕がなかったが、いまは比較的時間をつけやすい。

たまたま昨年、長崎県壱岐島に「電力の鬼」松永安左エ門記念館を訪問した。松永翁は南アルプスの大井川ダムなど多くの純国産の電源開発を、ベンチャー的な民活で山を切り拓いたと知った。さっそ



南アルプスの女王峰「仙丈ヶ岳」(3033m) 10位からの絶景(2015年10月 筆者撮影)



九州電力の方にご案内いただき、NECのスポーツ仲間と松永安左エ門記念館を訪問



南アルプス山岳地帯(聖岳、赤石岳、悪沢岳)の大井川を水源とする中部電力の井川発電所

く大井川上流を歩き、中部電力井川ダム(昭和32年運開し50年)を見て、水源地の南アルプス赤石岳、聖岳等を縦走してきた。井川は、流れ込み式の大規模水力であるが、その後は、負荷平準化に山岳地帯の揚水発電の隆盛となり、いまは需要地近傍のリチウム等の蓄電池の時代になりつつある。

山仲間、電力仲間との山談義

山の登頂方法やルートは様々だが、無理せず、自分の体調に応じ、ゆっくりたゆまず一歩ずつ進めば頂というゴールに必ず到着できるのも達成感がある。山歩きでの仲間もでき山談義で情報交換できるのも楽しみである。次回以降、登った百名山のヤマレコを頼りに、そのときに感じたことを紹介していきたい。なぜ山登りを勤めるのかも一歩一歩、綴っていきたい。